

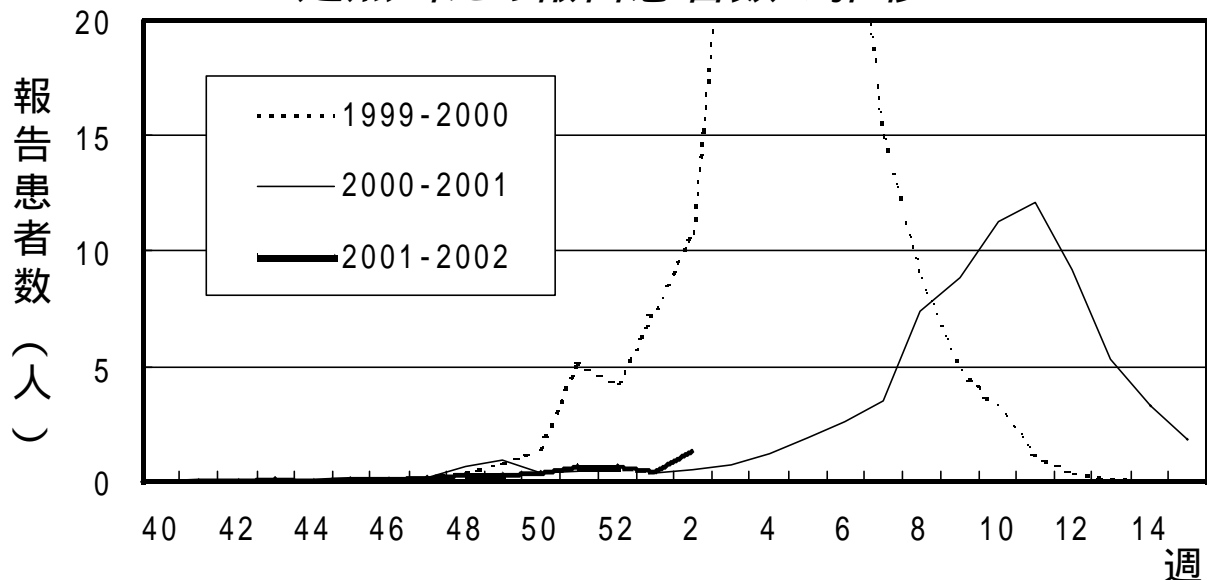
インフルエンザ

今冬 (2001 - 2002シーズン) の状況 (2002年第3週現在)

現在までのところ、昨シーズンと同様に報告患者数及び分離ウイルス数が少ない状態が続いています。全国のインフルエンザウイルスの分離報告数(1月11日現在)は、わずかに64株(A香港型30、Aソ連型21及びB型13)です。

本県における1999-2000シーズンからの報告患者数の推移を下のグラフに、また各シーズンの第3週時点での分離ウイルス数を表に示しました。1999-2000シーズンと比較すると、昨シーズン及び今シーズンは流行の立ち上がりの遅いことが分かります。

定点当たり報告患者数の推移



しかし1月に入ってから、インフルエンザを疑う検体の搬入が急増し、インフルエンザウイルスの分離が増えてきています。昨シーズン及び今シーズンは3種類のウイルスが全て分離されているという特徴があります。またこれまでに県内で分離された9株中7株が幼児及び成人からの分離であり、今後学齢期以外の患者発生にも注意が必要であると考えられます。

病原体定点の先生方には、引き続き検体採取にご協力をお願い致します。

インフルエンザウイルス分離数 (第3週まで)

	Aソ連型	A香港型	B型	合計
1999-2000	102	74	0	176
2000-2001	3	4	3	10
2001-2002	2	6	1	9

インフルエンザに関する全国情報の詳細については、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>) でご覧になれます。